

1. 教員および授業の概要

①教員名：福原 裕二 (FUKUHARA Yuji)

②担当科目

- ・博士前期課程：北東アジア超域研究総論、北東アジア専門講義 17 (朝鮮半島研究)、北東アジア研究指導 I～IV
- ・博士後期課程：北東アジア超域研究指導 I・II、特別研究活動

③教員のプロフィール

- ・広島大学大学院国際協力研究科教育文化専攻博士課程修了 [博士 (学術)]
- ・1998-1999 年 韓国啓明大学校国際学大学日本学科客員専任講師
- ・2004-2006 年 島根県立大学北東アジア地域研究センター助手
- ・2011-2012 年 韓国高麗大学校文科大学／日本研究センター研究教授
- ・2016 年～ 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員
- ・北東アジア国際関係史、日韓・日朝関係論、朝鮮半島地域研究、ボーダースタディーズ (国境・境域研究) などを専攻

④所属学会

日本国際政治学会、アジア政経学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・現代の日本-北朝鮮、日本-韓国関係
- ・韓国、北朝鮮の内政と外交、朝鮮半島の非核化問題
- ・北東アジアの領土問題、漁業、海洋秩序、海の共同利用の問題
- ・北東アジア国際関係における“心の問題”
- ・北東アジアの女性・環境問題

⑥研究指導方針

院生の希望する方法論、テーマ、対象地域を尊重するが、特に北東アジア国際関係や北東アジア近現代政治・外交史、朝鮮半島地域研究の分野で調査・研究、論文作成を希望するものに対して指導を行う。その際、既存の観点や方法、分析の枠組みでは把握しきれない社会動態に対して、どのようなアプローチが可能であるかという点に注視した研究指導を行いたいと考えている。

⑦指導可能な研究テーマ (あるいは指導実績がある研究テーマ)

- ・朝鮮半島をめぐる国際関係 (中韓修好後の中朝関係の変容……)
- ・韓国／北朝鮮の政治と外交 (韓国の文化外交、韓国の対北朝鮮政策、韓国における保守・

- 進歩主義、韓国の国連外交、北朝鮮の主体思想……)
- ・韓国／北朝鮮の社会（死刑執行停止からみる韓国社会……)
- ・日韓／日朝関係（在日コリアンの国籍選択……)
- ・ボーダースタディーズ（日本海／東海をめぐる日韓漁業の共生……)

2. 研究業績リスト（過去5年及び単著のみ）

<著書>

- ・『現代アジアと環境問題』（花伝社、2020年、編著）
- ・『現代地政学事典』（丸善出版、2020年、共著）
- ・『北東アジア諸国間の協力可能性とモンゴル国の役割』（NEAR センター、2018年、編著）。
- ・『北東アジアと朝鮮半島研究』（国際書院、2015年、単著）。
- ・『たけしまに暮らした日本人たち：韓国・鬱陵島の近代史』（風響社、2013年、単著）。

<論文>

- ・「モンゴル国における朝鮮民主主義人民共和国の派遣労働者」（『アジア社会文化研究』第19号、2018年3月、125-141頁、共著）。
- ・「韓国・鬱陵島現地調査報告：『国境』との関わりで」『JunCture 越境的日本文化研究』第7号、2016年3月、38-45頁。
- ・「竹島／独島周辺海域・日韓暫定水域をめぐる漁業紛争の論点」『漁業経済研究』第60巻第1号、2016年1月、33-42頁。

3. 学生に対するメッセージ

学部生時代、北朝鮮の金日成が死去しました。その報道に接するたび、日本の近隣でありながら、何ら知識のない国が存在することに愕然としました。私が研究者を志し始めたのは、すなわち「知らないこと（国・地域）を知りたい」という素朴な好奇心からです。結局、自分なりの北朝鮮像をつくる（学位を取得する）のに10年の歳月が必要でした。しかし、当初の好奇心が満足されると、それが新たな好奇心を育み、北朝鮮の「なぜ？」が朝鮮半島の「なぜ？」になり、また北東アジアの「なぜ？」となって、依然として朝鮮半島や北東アジアを「理解」したと言うにはほど遠い状況だと考えています。こうして、日々研究者として朝鮮半島を眺め、北東アジアについて沈思黙考しています。

さて、私の専門講義（朝鮮半島研究）では、テキストを用いて朝鮮半島をめぐる国際関係（史）について講義するほか、受講生に対して課題（事例研究）を与え、これをこなしていくことで朝鮮半島の紛争構造とその変容について考察していきます。研究指導では、個々の修士・博士論文作成に資する研究指導を行います。とりわけ、徹底した一次資料の通読による、ある社会の内在的な行動と態度の把握、また当該国家の主体的な行動が国際関係に与えるインパクトに関して分析することを課題に設定し、この課題を克服していくもっとも適した観点・方法とは何かを思考するプロセスを大切に研究指導を行っていき

いと考えています。

皆さんには、自らの設定した研究課題に対して、粘り強くコツコツと探究しようとする姿勢・態度、国籍や民族にとらわれない自由な発想を行おうとする決意、従前の観念や思考の枠組みに挑戦し、新たな構想を築こうとする意欲などを期待したいと思います。